

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

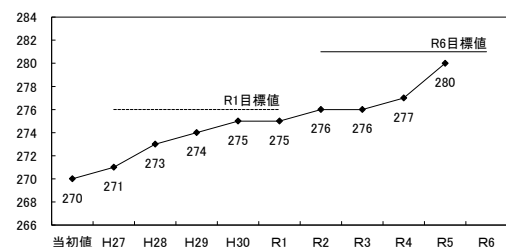
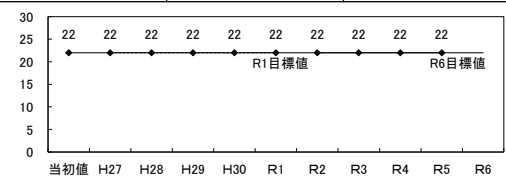
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	歴史文化課	
施策	11	歴史・文化の継承	評価 責任者	小國 渉	内線 7350
小施策	11-1	文化財の保護と活用	評価 シート 作成者	阿部 淳	内線 7351

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・市内に所在する有形文化財や天然記念物などは、後世に引き継いでいくため、収集、記録保存及び周辺環境を含めた維持管理に努める必要がある。また、地域に受け継がれている有形民俗などの文化財については、市民の歴史学習や地域学習のほか、世代間交流やまちの活性化のため幅広い活用を図る必要がある。 ・無形民俗文化財は、伝承基盤が確立している保存団体がある一方で、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、保存団体の特性に応じた対策が求められている。 ・遺跡などの埋蔵文化財については、各種の開発事業との調整を図るとともに、出土した埋蔵文化財の適切な管理や保存、調査を進め、その成果の公開に努める必要がある。 ・志波城跡や盛岡城跡などの史跡については、基礎調査や整備・活用を計画的に進める必要がある。	文化財指定の有無にかかわらず、有形文化財や無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財などの保護を適切に進めるとともに、市民がより歴史や文化に興味を持てるように、文化財の幅広い活用を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	地域の貴重な文化財を知るとともに、次世代に伝えるようになる。
文化財	適切に保護される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 文化財数(国、県、市指定)				成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	270	R1目標値	276	単 位 件	目指す方向 ↗
R6目標値	281				
				・指定文化財数が、3件増えた。 ・指定となっている有形・無形の文化財等を存続できた。	・補助金による支援等で、管理者による有形文化財の維持管理や民俗芸能保持団体の活動が促進され、文化財の保護が図られた。 ・有形のもの 管理費補助(34者 延べ53件) ・無形のもの 活動支援補助対象 盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会(構成活動団体数41団体)
盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例及び景観指標② 親法に基づく、景観重要建造物等(景観重要建造物21件・保存建造物1件・計22件)				成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	22	R1目標値	22	単 位 件	目指す方向 →
R6目標値	22				
				・景観重要建造物等を観覧する機会を設けることができた。 ・景観重要建造物等の維持保全を図り、前年に引き続き存続できた。	・市所有の景観重要建造物等の公開を行った。 ・市所有の景観重要建造物等の修繕を行ったことが、健全な維持保全につながった。
				問 題 点	問題の要因分析
				・有形の文化財等は、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものもある。 ・無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっている。 ・埋蔵文化財の発掘調査による出土資料の収蔵スペースが不足しており、適切な保管環境が整えられた収蔵スペースの確保が必要となっている。	・有形文化財等の保存・修繕にかかる資金(財源)の確保や、管理体制の維持が難しい状況となっている。 ・無形民俗文化財は、人口減少、少子高齢化の進行が顕著な地域ほど、民俗芸能保持団体の後継者の確保が難しい状況になっている。 ・埋蔵文化財の発掘調査は毎年実施されていることから、出土資料は増え続けており、既存の施設には収まり切れず、増築による収蔵スペースの確保も難しいため、仮設の施設にも仮置きしている状況である。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★…R6年度着手または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★ 有形文化財等の保存・修繕のため、町内会等地元住民への協力要請を行うとともに、必要に応じて、支援や助言を行うものとする。 ★ 盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組む。 ★ 民俗芸能保持団体の後継者不足について、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講じる。また、民俗芸能を紹介するPR動画を活用し、YouTubeやSNS等により、誇りの魅力を全世界に向け発信するほか、盛岡市芸術文化ポータルサイトに団体やイベントの情報を掲載し、民俗芸能の周知を図る。 ★ 埋蔵文化財発掘調査に伴い、増え続ける出土資料について、保管に適した空き教室を利用するなど、収蔵場所の確保を図る。 ★ 史跡・近世城郭としての歴史的価値と、近代以降の文化的景観の保全と調和を図りながら、盛岡城の持っている魅力や価値を高めるための整備・活用事業を推進する。
☆1 文化財保存活用地域計画の策定に向けて、未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かしつつ、地域社会との協働でその承継にどのように取り組むか等、協議・検討・調査を進める。 ☆2 通常の管理では維持が困難となっている指定文化財については、適切な保存や再生を目指した取組を進める必要がある。
★ 改修事業に係る財源の確保のため、国の補助制度の活用を図る。
★ 所有者に対し、改修補助制度の周知を図る。

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

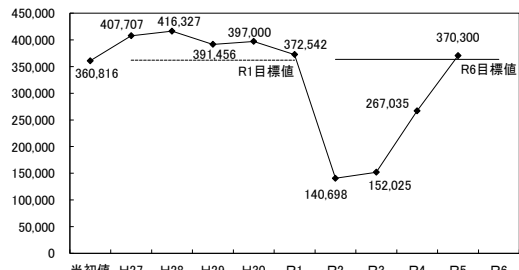
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策主管課等	歴史文化課
施策	11	歴史・文化の継承	評価責任者	小國 渉 内線 7350
小施策	11-2	博物館等施設の整備・充実	評価シート作成者	阿部 淳 内線 7351

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
博物館等施設は、その適切な管理運営と計画的な保全、整備に努める必要がある。	各施設の老朽化対策を進め、必要な施設整備を行う。また、各施設では、その施設の特色を生かした事業を展開し、市民へ学習機会を提供し、歴史や文化に対する理解が深まるような運営を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民等	地域の歴史や文化を知る。
博物館施設	魅力的で快適な施設環境になる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 博物館施設入館者数				単 位	目指す方向
				人	↗
当初値 (H25)	360,816	R1目標値	361,937	R6目標値	363,437
				・令和5年度の博物館施設入館者数は、全体として令和4年度と比較し約40%の増加に転じ、大規模改修工事に伴う休館期間中の施設を除く7施設のうち、4施設の入館者数は、コロナ禍以前の水準に回復した。 ・アメリカのニューヨーク・タイムズ紙(電子版)が発表した「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が選ばれ、注目されたことから、外国人を含め、観光客が増加したほか、各施設でSNS・HP等を活用したPR活動に取り組んだため。	
				問題点	問題の要因分析
				・原敬記念館や遺跡の学び館で空調設備が機能していないなど、施設、設備の老朽化が進み、修繕対応が追いつかず、来館者の受け入れ環境が改善できない箇所がある。 ・原敬記念館の敷地に危険樹木が存在しており、倒木の危険性がある。	
				・予算が限られていることから、修繕や環境整備が必要な箇所への対応が困難であり、対応が必要な箇所も累積している。	

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★…R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★ 各種企画展をはじめ、魅力的で話題性を捉えたイベントの開催のほか、各施設の情報案内、広報の強化を図るとともに、施設外へ出向く「出前講座」の充実に取り組む。 ★ 学校と連携し、教育課程や子どもの校外活動のニーズを踏まえながら、利用促進を図る。 ★ 施設への誘客を促進するため、他のイベントなどの観光資源を活用するとともに、施設のサポーターの育成について検討を行う。 ★ 玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館の複合施設の整備については、整備検討懇話会や関係機関等の意見を踏まえ、開館に向けた準備を進める。 ★ 施設や設備の修繕、樹木の剪定・伐採等については、優先順位を検討し、予算要求していく(原敬記念館の危険樹木は、9月12日伐採済)。 ☆1 文化財保存活用地域計画の策定に向けて、文化財や歴史的価値の高い歴史遺産の保存・活用の在り方を検討する。 ☆2 博物館施設敷地に生育する危険樹木について、施設と来館者の安全確保の観点から、伐採に向けた検討を行う。 ☆3 志波城古代公園の復元建物の腐朽が進行しており、建物によっては破損の恐れがあり、見学に支障をきたしているため、破損部分を特定しながら、危険箇所の除去や利活用に支障となる範囲の修復方法、計画を検討する必要がある。 ☆4 博物館等施設の修繕や改修、展示施設の更新等に係る財源として、国の財政的な支援制度のほか、ふるさと納税やクラウドファンディングの制度等の活用について検討を行う。

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

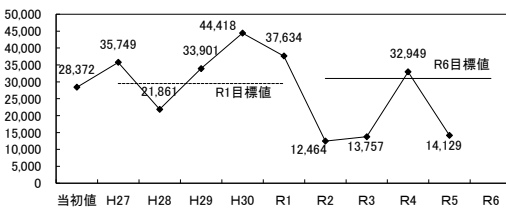
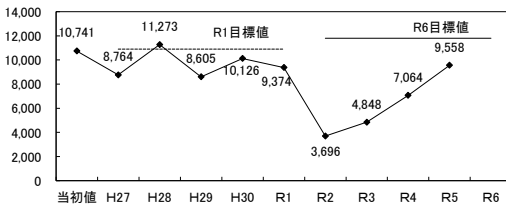
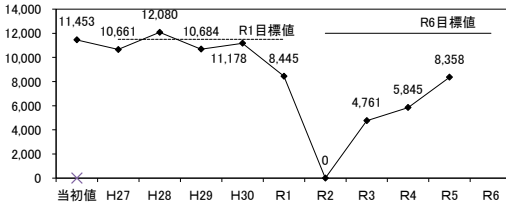
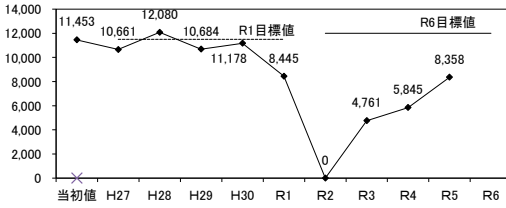
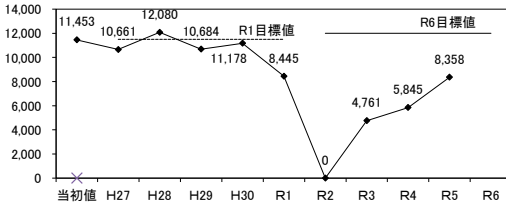
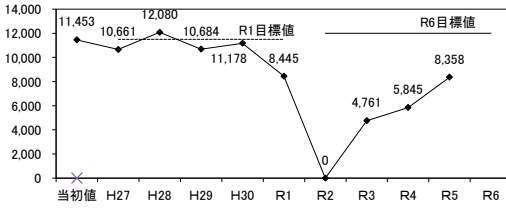
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課	
施策	12	芸術文化の振興	評価 責任者	城守 まゆみ	内線 3710
小施策	12-1	芸術・文化活動の充実	評価 シート 作成者	佐々木 努	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民の価値観が多様化していることから、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業や各種講座など、芸術文化に親しむ機会を提供する事業については、市民ニーズの把握に努めるとともに、それぞれの文化会館の特色を生かしながら、魅力ある事業展開を図る必要があります。	優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民自らが表現する場や芸術団体が相互に交流する場の創設と芸術文化団体の活動を支援する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民、芸術・文化に関わる人・団体	芸術・文化活動に参加できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 芸術文化事業鑑賞者数				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	28,372	R1目標値	29,500	R6目標値	31,000
				・盛岡劇場及び渋民文化会館について、昨年度に比べ開催事業数に大差はないが鑑賞者数は増加しており、渋民文化会館においては、新型コロナウイルス感染症のため中止となっていた、中学校吹奏楽部生徒への演奏指導などを開催し、芸術文化の鑑賞・体験機会を提供することができた。	・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、これまで中止していた事業の再開や入場者の制限せず開催したことが要因と考えられる。
指標② 文化会館活動参加者数				問題点	問題の要因分析
当初値 (H25)	10,741	R1目標値	10,900	R6目標値	11,800
				・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、社会経済活動の制限がなくなったが、昨年度に比べて、芸術文化の鑑賞者数が18,820人減少した。	・数年にわたり芸術文化事業の中止や規模縮小が続いた影響で、市民生活の中で芸術文化事業を鑑賞したいという動機を持つきっかけが少なくなっていることが考えられる。 ・令和4年度には、集客力の大きい催事(MINIATURE LIFE展2～田中達也 見立ての世界～)があったため、昨年度と比較すると鑑賞者数が減少している。
指標③ 盛岡芸術祭参加者数				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	11,453	R1目標値	11,500	R6目標値	12,000
				・参加者数は昨年度の1.35倍となり、より多くの方が文化会館での活動に参加することができた。	・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、行動の制限が緩和されたことにより社会活動が活発化したことから、参加者数も増加したものと考えられる。 ・隔年実施の「劇団モリオカ市民」公演があったことも鑑賞者数増加の要因となっている。
指標④ 盛岡芸術祭参加者数				問題点	問題の要因分析
当初値 (H25)	11,453	R1目標値	11,500	R6目標値	12,000
				・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、社会経済活動の制限がなくなったことで、文化会館の活動に参加する市民も増えているが、当初値の水準までには戻っていない状況である。	・数年にわたり芸術文化事業の中止や規模縮小が続いた影響で、市民生活の中で文化会館活動事業に参加したいという動機を持つきっかけが少なくなっていることが考えられる。
指標⑤ 盛岡芸術祭参加者数				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	11,453	R1目標値	11,500	R6目標値	12,000
				・参加者数は昨年度の1.43倍となり、昨年よりも多くの方が参加することができた。	・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、行動の制限が緩和されたことにより社会活動が活発化したことから、参加者数も増加したものと考えられる。
指標⑥ 盛岡芸術祭参加者数				問題点	問題の要因分析
当初値 (H25)	11,453	R1目標値	11,500	R6目標値	12,000
				・徐々に参加人数は増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の平成30年度の参加者数の水準までは戻っておらず、以前に比べて盛岡芸術祭に参加する市民が少なくなっている。	・参加者の高齢化による出品数の減少や、新型コロナウイルス感染症による活動制限が長期化したこともあり、芸術文化活動への参加意欲や関心が薄れてしまったものと考えられる。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業を推進する。	
★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度毎の重点的な取組内容を定め実施する。	
★ 次期芸術文化推進計画の策定に向け、関係者との意見交換などを通じ芸術文化団体等のニーズ把握に向けた取り組みを進める。	
☆ 国の芸術文化推進基本計画(第二期)の内容等も踏まえ、文化会館での芸術文化活動の方向性等について検討し、市の次期芸術文化推進計画へ反映させる。	
★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業を推進する。	
★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度毎の重点的な取組内容を定め実施する。	
★ 次期芸術文化推進計画の策定に向け、関係者との意見交換などを通じ芸術文化団体等のニーズ把握に向けた取り組みを進める。	
☆ 国の芸術文化推進基本計画(第二期)の内容等も踏まえ、文化会館での芸術文化活動の方向性等について検討し、市の次期芸術文化推進計画へ反映させる。	
★ 引き続き、盛岡芸術協会と実施内容を協議しつつ、市民へのPRなど芸術祭の周知を図り、多くの市民の参加を促していく。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

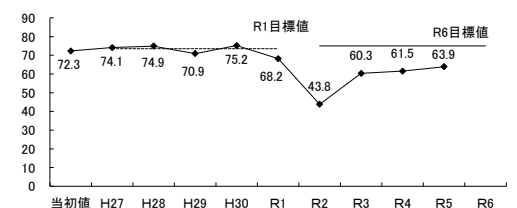
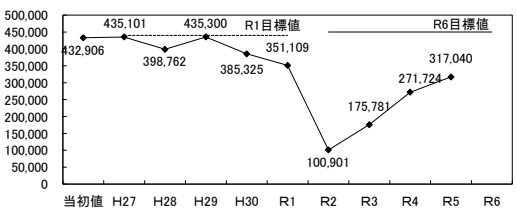
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課
施策	12	芸術文化の振興	評価 責任者	城守 まゆみ 内線 3710
小施策	12-2	文化施設の整備と活用	評価 シート 作成者	佐々木 努 内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
文化会館は各施設とも建設から20年以上経過しており、設備も老朽化してきていることから、安全・快適で機能的な活動環境の提供に当たっては、適正な管理運営と計画的な施設設備の修繕や更新に努める必要があります。また、寄贈を受けた多数の市所蔵美術品の管理や有効活用を図る必要があります。	文化施設利用者へのサービス向上のため、計画的に設備の更新・修繕を実施します。また、市民の自主的・創造的な芸術文化活動が活発に行われるように、文化施設の活用を図ります。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
芸術文化施設	芸術文化活動の場として、より活用が促される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 文化会館平均利用率				単 位 %	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	72	R1目標値	74	R6目標値	75
				・新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた利用率が、昨年の61.5%から63.9%まで増加した。	
				問題点	問題の要因分析
				・利用率は昨年度より増えているものの、令和元年度の水準までは回復しておらず、コロナ禍前と同様の利活用が図られているとは言い難い。	・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う施設の利用の自粛が依然としてあると考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う催事の中止や延期が長期化したことから、主催者側での催事の実施体制(ノウハウや運営人員など)も縮小されており、以前のように催事を実施できる体制が組めなくなっている例もあるものと考えられる。
				成果点	成果の要因分析
指標② 文化会館利用者数				単 位 人	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	432,906	R1目標値	440,000	R6目標値	450,000
				・依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前までは戻っていないものの、利用者数は年々増加し、令和元年度の利用者数まで戻りつつある。	
				問題点	問題の要因分析
				・新型コロナウイルス感染症の制限が解除され、利用者数が回復基調となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度の参加者数の水準までは戻っていない。	・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う施設の利用の自粛が依然としてあると考えられる。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業を推進する。 ★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度毎の重点的な取組内容を定め実施する。 ★ 文化会館の利用促進に向けた催事の充実など具体的な方策について、指定管理者等と協議し実施する。
★ 芸術文化推進計画及び実施計画に基づき、計画的な修繕を実施するため、ネーミングライツや広告収入を活用した財源確保について検討を進める。

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

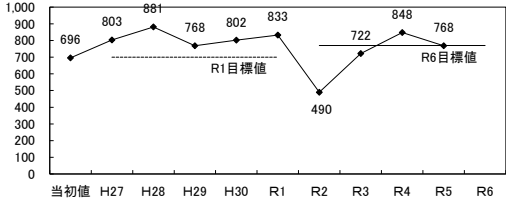
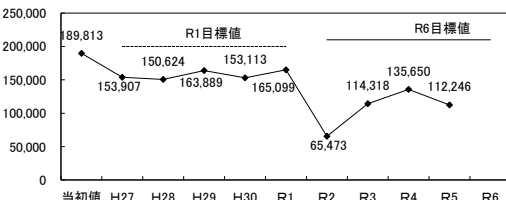
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	箱石 元	内線 3770
小施策	13-1	ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進	評価 シート 作成者	佐藤 教行	内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人ひとりが、生涯にわたるスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすためには、スポーツや健康づくりに関する推進体制の充実やスポーツ指導者の発掘・養成、さらには、魅力ある企画や情報提供など、多面的な環境づくりを進める必要がある。 競技スポーツは、ジュニア期からの一貫した指導による選手の育成・強化が大切であり、指導者の確保や各種大会への参加支援のほか、競技スポーツに対する市民の関心を高め理解を深める必要がある。 学校体育やスポーツ少年団活動の充実などによる子どもたちの健全育成に努める必要がある。	すべての市民がスポーツに参画する機会が確保できるようにソフト面での充実を図り、各世代のニーズに応じてスポーツに親しみ、楽しめるスポーツ活動などを推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	多くの市民がスポーツに参加している。
生涯スポーツに関わる団体・指導者	市民がスポーツに関わる機会を多く提供している。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 市の事業数				単 位	目指す方向
				件	↗
当初値 (H25)	696	R1目標値	700	R6目標値	770
				・新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度に大きく減少したが、感染対策が定着したことにより、令和3年度からは事業数も増加し、令和4年度以降は、ほぼ全ての事業を再開し、コロナ禍前の水準に戻りつつある。	
				問 題 点	問題の要因分析
				・競技種目のスポーツ大会は充実しているものの、生涯スポーツや年齢に応じたスポーツを通じての健康づくり事業は少ない。	・各競技団体及び指定管理者など連携した生涯スポーツや健康づくり事業の取組が不足していることと、市民のスポーツを通じて健康づくりへの意識醸成が十分ではないと考えられる。
指標② 事業参加者数				単 位	目指す方向
				人	↗
当初値 (H25)	189,813	R1目標値	200,000	R6目標値	210,000
				・各種スポーツ大会やスポーツ教室等に、子どもと保護者が一緒に参加できるスポーツ機会の提供や、いわて盛岡シティマラソン大会などの各種大会の再開を進めた。	
				問 題 点	問題の要因分析
				・コロナ禍前の事業参加者数に戻っていない。 ・子どもや高齢者向けのスポーツ教室や大会への参加者は多いが、働く世代の参加者が少ない。	・各イベントにスポーツ推進委員を積極的に派遣し、スポーツ大会等への共催・後援を進め、コロナ禍前の水準に戻るよう取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、いわて盛岡シティマラソン大会などの各種大会が制限なく開催できた。
				・仕事などで時間に制約のある働く世代が、それぞれのライフスタイルに応じて気軽にスポーツに取り組むための職場や夜間・休日等のスポーツの環境整備が不十分である。	

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★ 盛岡市スポーツ推進計画(R5～R9)に基づき、スポーツの「する」「支える」「広がる」環境づくりの3つを柱とした施策を着実に進め、誰もがスポーツに取り組みやすい環境整備を進める。	
★ 盛岡市スポーツ推進計画の成果指標の一つである「成人の週1回以上のスポーツ実施率」を向上させ、市民のスポーツを通じた健康づくりの意識醸成を図るために、どこでも気軽に始められるウォーキングを市民にイベントやスマートフォンアプリを活用して推進する。	
★ 各種スポーツ大会やスポーツ教室等の周知に当たり、スポーツに親しむ機会が少ない働き世代へ気軽にスポーツに取り組めるように、各スポーツ関係団体と連携を強化する。	
★ いわて盛岡シティマラソン大会については、国内外から幅広い世代が参加する魅力的な大会となるよう、要望の多かった走りやすいコースに変更するとともに、引き続き、小学生を対象としたジュニアチャレンジランなどを開催する。	
★ 健康づくりアプリ「モリウオーカー」の周知を進めながら、職場単位で取り組むことを推進する企業表彰制度を創設し、働き世代のスポーツを通じた健康づくりを図る。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

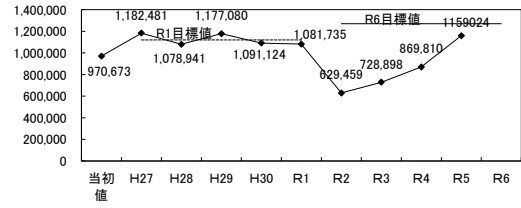
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	箱石 元	内線 3770
小施策	13-2	スポーツ施設の整備充実	評価 シート 作成者	佐藤 教行	内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民がスポーツを継続するためには、スポーツ施設を適正に配置するほか、効果的・効率的運営と施設の充実を図る必要がある。	市民ニーズに対応した新たな施設の整備や老朽化やユニバーサルデザインに対応する改修など、アセットマネジメントの考え方を踏まえながら、適切なスポーツ施設の配置及び整備・改修を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	場(施設)が提供される。
スポーツ・レクリエーション施設	適切に配置され、充実した機能を備えている。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 施設利用者				単 位 人	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	970,673	R1目標値	1,120,000	R6目標値	1,270,000
				・施設利用者は、新型コロナウイルス感染症拡大前を上回る状況となり、市民がスポーツをする機会を拡大させることができた。	
				問題点	問題の要因分析
				・施設修繕や競技用具の不具合により施設の利用が一部制限される場合がある。	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、スポーツ大会等の開催がコロナ禍以前の状況に戻ったことに加え、令和5年度からいわて盛岡ボールパークが供用開始されたことにより、施設利用者数が大きく増加したため。
				・アセット計画等に基づく修繕等は実施しているが、老朽化に伴う突発的な修繕や備品更新が発生しており、それらに対する十分な費用が確保できていない。	

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R6年度着手または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★ 施設利用者向上につながる自主事業の拡大を指定管理者に要請する。	
★ 公共施設保有最適化・長寿命化計画を着実に推進する。	
★ 施設の維持管理に係る費用の確保策を検討する。	
★ 施設の価値向上に寄与する施設の整備や備品の購入等により、県外を含めた利用者の増加に繋げる。	
☆ 新体育館の早期供用開始に努め、施設利用を推進する。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

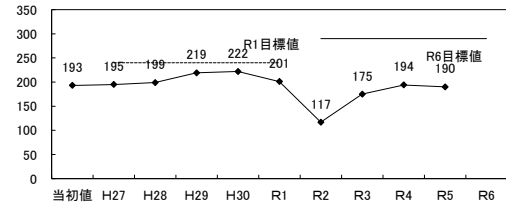
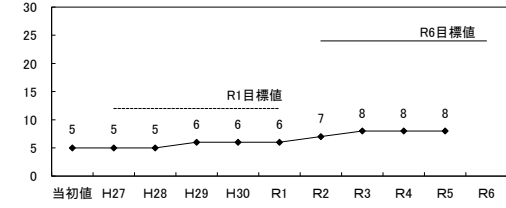
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	箱石 元 内線 3770
小施策	13-3	スポーツ団体等との連携強化	評価 シート 作成者	佐藤 教行 内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
スポーツ大会などの企画運営や競技力向上のためには、指導にあたる組織や人材が必要となるため、スポーツを支えるための組織・人材などとの連携を強化する必要がある。	市民へのスポーツの普及・定着化と競技力の向上を目指すため、広域市町、関係機関・団体などとの連携を強化する。
対象(誰(何))を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
スポーツ団体等	団体の役割を明確にし、市民のスポーツ活動が活発に展開される環境を作る。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 市が共催・後援する事業の数				事業	↑
当初値 (H25)	193	R1目標値	240	R6目標値	290
				・盛岡市スポーツ協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の共催・後援事業数について、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うスポーツイベントの減少により、令和2年度は、共催・後援事業数も大きく減少したが、令和3年度以降は、事業の感染対策の徹底などによって再開したことにより、実施コロナ禍前の水準に戻りつつある。	・岩手県と盛岡市の共同整備により新野球場の「きたぎんボールパーク」を整備し、スポーツをする環境が向上した。 ・スポーツ大会等への共催・後援を進め、コロナ禍前の水準に戻るよう取り組んだ。
				問題点	問題の要因分析
				・各競技団体や総合型地域スポーツクラブにおいて、停滞している事業がある。	・各競技団体や総合型地域スポーツクラブの活動に携わるスタッフが高齢化・固定化している。
				成果点	成果の要因分析
指標② 総合型地域スポーツクラブの数				団体	↑
当初値 (H25)	5	R1目標値	12	R6目標値	24
				・総合型地域スポーツクラブの事業が定着し、運営が安定的に行われている。	・開催するイベントや大会について、市との共催により周知や活動場所の使用料減免等の支援が安定的な運営につながっているものと考えられる。
				問題点	問題の要因分析
				・市民のスポーツ活動機会の拡大に向けた支援を行う総合型地域スポーツクラブが令和4年度以降増えていない。	・総合型地域スポーツクラブの創設は、準備に時間を要する。 ・総合型地域スポーツクラブを立ち上げるノウハウを持っている人材が少ない。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★ 運動部活動の地域移行について、地域クラブ活動の地域指導者の確保するために、盛岡市スポーツ協会、各競技団体及び総合型地域スポーツクラブと情報共有を行い、地域指導者の掘り起こしを検討する。 ☆ 盛岡市スポーツ協会、各競技団体及び総合型地域スポーツクラブがイベントや大会を開催しやすくするため、人材確保、効率化や集約化などの意見交換を行い、支援の方策を検討する。
★ 地域活性化も図られる総合型地域スポーツクラブを増やしやすいように、市民の理解と協力を得られるよう、総合型地域スポーツクラブの周知を継続して実施するとともに、人材確保の情報収集に努める。

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	箱石 元 内線 3770
小施策	13-4	プロスポーツ等との連携	評価 シート 作成者	佐藤 教行 内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
本市をホームタウンとするプロスポーツのチームの活躍は、まちの活性化、スポーツ人口の拡大など、さまざまな効果が期待できるため、市民の関心を高めるさまざまな施策を講じる必要がある。	市民のスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを通じた地域活性化を目指して、プロやプロを目指すチームとの連携を図る。
対象(誰(何))を対象として行うのか	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	スポーツへの関心が高まる。
プロスポーツ団体等	優勝するなど、市民のスポーツへの関心が高まるような成績を残す。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性
				成果点	成果の要因分析	
指標① プロチーム等のチーム会員数	単 位 人	目指す方向 ↗		・プロスポーツチームのファンクラブ会員数の合計がコロナ禍前の水準になった。 (ビッグブルズ…2020-2021シーズン425人、2021-2022シーズン608人、2022-2023シーズン801人、2023-2024シーズン778人) (グルージャ…令和2年度 会員数228人、令和3年度 会員数635人、令和4年度 会員数791人、令和5年度 会員数307人) ・プロスポーツチームの活動を市ホームページや広報もりおかで紹介するなどし、市民の地域のプロスポーツへの関心を高めた。	・試合会場や練習施設の優先利用や施設使用料の軽減を行ったことにより、各団体が積極的な集客に取り組めたものと考えている。	★ プロスポーツチームのホームゲーム開催の支援や練習環境の確保等を引き続き行い、プロスポーツチームが活動しやすい環境づくりを行う。 ★ 市のホームページや広報もりおかを通じてプロスポーツチームの社会貢献事業活動などの周知を行い、市民に愛されるプロスポーツチームに育てる。
当初値 (H25) 2,177	R1目標値 14,000	R6目標値 24,000		問題点	問題の要因分析	
				・実績値が目標値を大きく下回っている。		★1 プロスポーツ団体の特徴や強みを生かした市のスポーツ推進事業を検討する。
指標② プロチームが市事業を受託した件数	単 位 件	目指す方向 ↗		成果点	成果の要因分析	
当初値 (H25)	R1目標値 0	R6目標値 4		・いわてグルージャ盛岡の運営会社である(株)いわてアスリートクラブがつなぎ多目的運動場の指定管理事業を引き続き受託し、繫地区にプロスポーツチームが関わり、地域活性化に貢献している。	・いわてグルージャ盛岡がつなぎ多目的運動場を練習会場と指定管理施設となっている。	
				問題点	問題の要因分析	
				・実績値が目標値を下回っている。	・令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金・交付金を活用したものである。プロスポーツ団体の特徴を生かせる事業が少なく、さらに継続可能な事業となると限られる。	

今後の方向性(令和6年度以降)

★…R6年度着手済または着手予定
☆…R7年度以降の着手を検討

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	箱石 元 内線 3770
小施策	13-5	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承	評価 シート 作成者	坂下 剛 内線 3784

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来に引き継ぎ、東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウン事業の成果を生かし、関係団体と連携・協力して交流人口の拡大とまちの魅力発信に取り組んでいく必要がある。	スポーツによる交流人口の拡大、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組、広域的な地域スポーツの推進に取り組み、「希望郷いわて国体」「希望郷いわて大会」によりもたらされた有形・無形の様々な遺産(レガシー)を確実に未来に引き継ぐ。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	スポーツへの興味、関心を持ち、「する」「見る」「支える」形で参加する。
県内外のスポーツ競技団体	スポーツツーリズムとして本市に興味を持ち、国際大会、全国大会を開催する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和6年度以降)
				成果点	成果の要因分析	
指標① 事前合宿・全国大会受け入れ数						評価を踏まえた取組の方向性
当初値 (H25)	0	R1目標値	3	R6目標値	3	★国際大会や全国大会などの誘致により交流人口の拡大と競技力の向上につなげる。 ★スポーツクライミングの大会を誘致するため、日本山岳・スポーツクライミング協会を訪問し誘致活動を行う。
				・リード及びボルダージュス日本選手権を令和6年度の開催に向けて誘致することができた。	・競技大会等開催事業において、県と共に上京して誘致活動を行ったほか、大会開催に伴い組織した実行委員会の運営資金を負担した。	
				問題点	問題の要因分析	★R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
				・大会合宿誘致の主なターゲットである首都圏の主催者にとって、選手やスタッフの移動費や宿泊費等の負担が大きい。	・他都市で実施している大会や合宿を盛岡に誘致するためには、財政支援等の優位性を示す必要がある。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

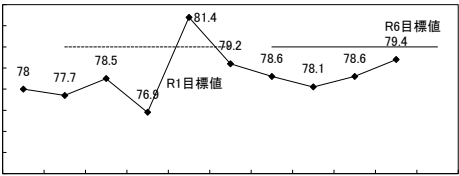
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市戦略室
施策	14	「盛岡ブランド」の展開	評価 責任者	平山 久枝 内線 3805
小施策	14-1	市民・事業者との意識共有	評価 シート 作成者	清水 友博 内線 3868

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
盛岡らしい有形・無形の価値や魅力を「盛岡ブランド」として整理・体系化し、発信してきましたが、市民や事業者への浸透が十分ではなく、盛岡ブランドをよく理解してもらう必要がある。	市民や事業者に盛岡ブランドをよく理解してもらい、意識共有を図るための取組を充実・強化することにより、市民一人ひとりが盛岡に対する誇りや愛着を抱くシビックプライド*2の醸成を図ります。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう。
市民以外の人	盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	78	R1目標値	80	R6目標値	80
				問題点	問題の要因分析
・まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合が上昇した。				・成果指標が目標値まで達していない。	・小学校の総合学習で盛岡ブランドを周知する機会が増加し、子どもたちの郷土愛の醸成を図ることができた。 ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、盛岡にゆかりのある本や映画を活用したシティプロモーションの推進を行うことができた。 ・新たなプロモーション素材としてイラスト素材及び素材集「盛岡絵図鑑」を作成し、盛岡の魅力を発信できた。
					・インナープロモーションが行き届いていないターゲット層がある。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★ 新たに策定した「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市内住民に向けたインナープロモーションを行うための手法の検討・構築を行う。
★ 子どもたちに向けた郷土愛の醸成を図るため、小学校との連携を継続的に行えるよう、関係の構築に努める。
★ ターゲット層を分けた戦略的なプロモーションを行う。
★ 令和2年に策定した「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」の取組期間が終了することからこれまでの成果と課題を分析し、次期計画を策定する
☆1 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき検討したプロモーションを実践する。

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市戦略室
施策	14	「盛岡ブランド」の展開	評価 責任者	平山 久枝 内線 3805
小施策	14-2	情報発信の強化	評価 シート 作成者	清水 友博 内線 3867

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
盛岡市の認知度は、民間シンクタンクの調査によると、決して高くはなく、首都圏や関西以西において認知度を向上させる余地があることから、特産品やイベントなどの魅力を生かしながら、全国に向けて情報発信を効果的に行う必要がある。	発信に当たっては、シティプロモーション※3の視点から、マーケティング手法を用いて情報の受け手を選択し、ソーシャルメディア等の新たな広報・情報媒体の積極的な活用を図るほか、転出者や首都圏等に在住する盛岡出身者等、盛岡に関わりがある人をキーパーソンとする。人々との繋がりによる盛岡の魅力の発信に取り組みます。
対象(誰/何)を対象として行うのか	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう
市民以外の人	盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」				単 位 位	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	58	R1目標値	50	R6目標値	50
				・地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」が上昇した。	
				問題点	問題の要因分析
				・盛岡の価値や魅力について、ターゲットを設定した遊及を行ったが、地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」が目標値に到達しなかった。	・新たなプロモーション素材としてイラスト素材及び素材集「盛岡絵図鑑」を作成し、盛岡の魅力を発信できた。 ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、盛岡にゆかりのある本や映画を活用したシティプロモーションの推進を行うことができた。 ・魅力度と相關のある観光意欲度、産品想起率の順位が上がっており、効果的な訴求ができた。 ・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業の一連の取組を「盛岡という星で」プロジェクトとして一貫性を持たせたことにより、効果的な発信につながった。
				成果点	成果の要因分析
指標② 観光客入込数				単 位 万人回	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	472	R1目標値	500	R6目標値	520
				・観光客入込数が目標値まで達していない。 ・舟運運航回数の増加が難しくなっている。	
				問題点	問題の要因分析
				・ニューヨークタイムズ紙「2023年に行くべき52カ所」に選出された。 ・盛岡にゆかりのある本や映画を活用したシティプロモーションを推進することで盛岡の魅力の再確認と情報発信ができた。 ・開港祭川開きのほか、舟運運航実験(6回)が開催された。 ・北上川沿川の木伏緑地や八幡町・大慈寺・鉈屋町界隈の各種イベントと連携し、北上川フェスタinMORIOKAが開催された。 ・北上川と盛岡市民の歴史的関りを広め、まちづくりに活かすことを目的とする舟運講演会を開催した。	・これまでの日常の暮らしの中にある魅力である「盛岡ブランド」推進の取組が実を結んだ。 ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、市内の映画館や書店を巻き込み、それぞれの特徴や取組を発信できた。 ・盛岡にゆかりのある映画関係者や作家などによるトークイベントを実施し、盛岡の文化や魅力の再発見と発信ができた。 ・地元団体、国土交通省、市が構成団体となった舟運実行委員会により舟運実現に向けた取り組みの強化が図られた。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市外住民に向けた効果的なプロモーションを行うためにマーケティング及び戦略的プロモーションの庁内への定着を図る。
★ 訴求する相手方(ターゲット)の設定やターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションを実施する。
★ 新型コロナウイルスの影響による地方への移住ニーズの高まりに対応するため、移住定住・交流人口対策事務局を設置し、部局横断的な移住等支援体制の強化を図る。
★ 関係人口が盛岡での具体的な取組に関わるための機会を創出する。
★ 中心市街地に関係人口交流拠点「盛岡という星で BASE STATION」を整備し、官民連携により上記の取組を推進する。
★「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市外住民に向けた効果的なプロモーションを行うためにマーケティング及び戦略的プロモーションの庁内への定着を図る。
★ 訴求する相手方(ターゲット)の設定や、ターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションを実施する。
★ オンラインなどを活用しながら、東京圏の移住希望者と交流を図り、関係人口交流拠点を活用した受け入れ態勢を整える。
☆「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき市外に向けたプロモーションの効果を高めるため、マーケティング手法を取り入れ、全庁的な視点で連携した情報発信を実践する。
★ これまでの実施体制を可能な限り引き継ぎながら、さらなる知名度の向上を図る。
★ 事業の主体的な役割を担う「北上川に船っこを運航する盛岡の会」と連携して今後の運営体制を検討していく。

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

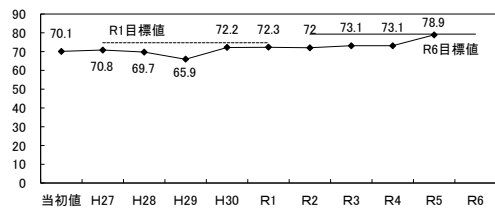
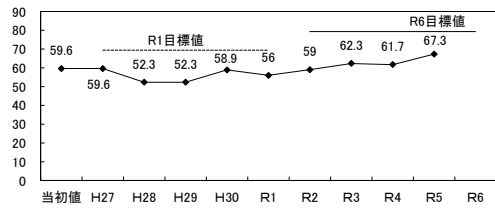
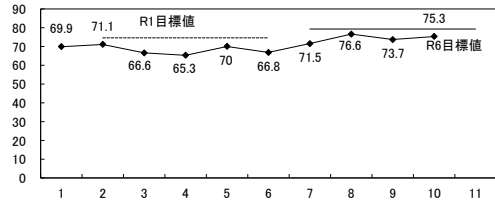
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	景観政策課	
施策	15	良好な景観の形成	評価 責任者	三橋 一仁	内線 7290
小施策	15-1	景観保存対策の充実	評価 シート 作成者	佐藤 秀	内線 7295

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・盛岡らしい都市景観形成の実現のため、各地域の景観特性が生かされた景観形成を図る必要があります。 ・盛岡固有の佇まいを残す盛岡町家などの歴史的景観を保全・継承する必要があります。 ・優れた自然環境と歴史的環境とが調和する個性豊かな都市環境を次世代に継承していく必要があります。	・景観計画に基づき、地域の特徴を生かした景観形成促進地区などの指定を行うとともに、優れた景観や建造物などの保全・活用について、市民との協働による取組を進め、景観に配慮した快適で美しく活気ある街並み形成を進めます。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
街並み、山並み	優れた景観が守られる。
市民・建築関係者	景観に対する意識が高まる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25) 70		R1目標値 75	R6目標値 79	・まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より増加している。 ・景観重要建造物に係る維持保全の必要性について、市民等の意識を高めた。 ・市街地の豊かな歴史的環境が維持・保全された。	・市所有の景観重要建造物を公開することにより、広く市民等に景観重要建造物を観覧する機会を設けた。 ・民間所有の景観重要建造物の改修支援制度を継続するとともに、市所有の景観重要建造物の修繕等を行ったことが、景観重要建造物の健全な維持管理保全につながった。 ・景観重要樹木の樹勢診断を行い、樹木の状態の把握により、良好な維持管理保全につながった。 ・景観計画区域内行為届出等制度により、形態・意匠・色彩等が制限されており、良好な景観が保たれている。
				問題点	問題の要因分析
・市所有の景観重要建造物等の公開により景観意識の向上を図っているが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となっている。 ・身近に誇れる景観があることに気付いていないことが考えられる。				・市所有の景観重要建造物等の公開により景観意識の向上を図っているが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となっている。 ・身近に誇れる景観があることに気付いていないことが考えられる。	・景観関係業務・事業等を継続して実施しており、概ね良好な市街地の景観が保全されているものの、他部署との連携による更なる推進が必要である。 ・景観重要樹木について、より一層の樹勢診断等の活用を図り、危険樹木の早期把握など維持保全に努める必要がある。 ・歴史的町並み整備事業の周知を図り、蛇屋町の歴史的街並みの修景を進める必要がある。 ・市所有の景観重要建造物の維持保全のため、計画的な改修を図る必要がある。
指標② まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園・丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25) 60		R1目標値 69	R6目標値 79	・まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園・丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合が昨年より増加している。 ・良好な景観が維持・保全された。	・田園や丘陵地は、新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、建設可能な新たな建造物等が建設される際においては、景観に配慮した形態・意匠・色彩とするよう誘導することにより、のびやかで美しい周辺の自然と調和した佇まいの維持・向上が図られた。
				問題点	問題の要因分析
・特になし。				・特になし。	・景観関係業務・事業等を継続して実施しており、良好な田園・丘陵地が保全されている。
指標③ まちづくり評価アンケート調査「誇れる山地の景観があると思う」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25) 70		R1目標値 75	R6目標値 79	・まちづくり評価アンケート調査「誇れる山地の景観があると思う」と答えた市民の割合が昨年より増加している。 ・山地における良好な景観が維持・保全された。	・山間地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、建設可能な新たな建造物等が建設される際においては、景観に配慮した形態・意匠・色彩とするよう誘導することにより、豊かな自然に囲まれた現状の環境や眺望対象としての景観の維持が図られた。
				問題点	問題の要因分析
・特になし。				・特になし。	・景観関係業務・事業等を継続して実施しており、良好な山間地の景観が保全されている。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R6年度着手または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★景観重要建造物の公開により景観意識の向上を図る。 ★景観重要建造物等の改修事業に係る財源の拡充のため、国の補助制度の活用を図る。 ★景観重要建造物等の改修補助や歴史的町並み修景補助の制度等の周知を図る。 ★景観重要建造物、景観重要樹木等の維持保全を図る。	
★小施策15-2「良好な景観形成の誘導」の事業と連携し、都市景観シンポジウム等で良好な景観の周知や各種補助事業の周知を図る。	
★小施策15-2「良好な景観形成の誘導」の事業と連携し、都市景観シンポジウム等で良好な景観の周知や各種補助事業の周知を図る。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

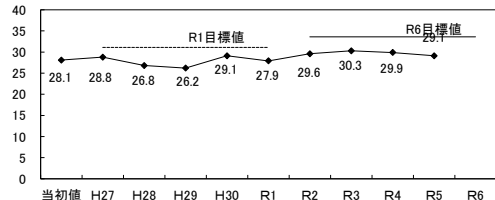
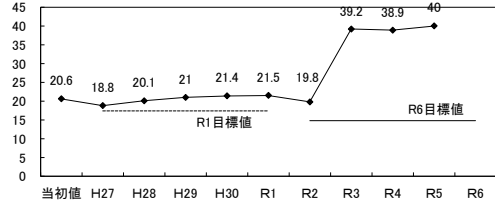
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	景観政策課
施策	15	良好な景観の形成	評価 責任者	三橋 一仁
小施策	15-2	良好な景観形成の誘導	評価 シート 作成者	佐藤 秀
				内線 7290
				内線 7295

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・景観計画の目標を実現するために、景観計画の内容や景観法に基づく届出制度等について、引き続き、広く市民や事業者等に周知していくほか、景観に関する意識の高揚を図る必要があります。 ・景観への影響が大きい屋外広告物の適正化のために、許可制度などの周知・啓発を推進する必要があります。	・これまで取り組んできた景観施策の実績を踏まえ、次世代に継承できる「美しいまち盛岡」を実現するため、更なる景観施策の充実と向上を図り、良好な景観の形成を推進します。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
街並み、山並み	優れた景観が守られる。
市民・建築関係者	景観に対する意識が高まる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に指標①表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮されていると思う」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	28	R1目標値	31	R6目標値	34
				・まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮されていると思う」と答えた市民の割合が、昨年より減少しているが当初からは増加している。 ・市民等の屋外広告物制度に関する認知度が向上した。	・屋外広告物の適正化に係る行動計画を策定し、重点事項を中心に指導を行うことにより、無許可広告物の減少に努めたことが許可申請の提出につながった。
				問題点	問題の要因分析
				・申請等を伴わない放置された違反広告物が依然として市内各所に存在していることから、屋外広告物タウンミーティングなど官民が連携する啓発イベントを通じて屋外広告物制度について周知啓発を行っているが、まだ制度が広く浸透しているとは言えない状況にある。	・市において、違反広告物の所有者及び占有者に対し、指導等を行い、また、屋外広告物の制度について周知等をしているが、いまだ認識が浅い状況にあることから、指導や周知の方法を検討し、屋外広告物の適正化を継続的に取り組む必要がある。
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観があると思う」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	21	R1目標値	17	R6目標値	15
				・良好な景観の保全・改善を希望する市民が増加した。 ・景観に関する市民の意識が向上した。	・都市景観シンポジウムの開催や都市景観賞の表彰等を行い、市民の都市景観に関して求めるレベルが向上した。
				問題点	問題の要因分析
				・都市景観シンポジウムのアンケートからは、市街地においては、改善すべき項目の中で、歴史的な街並みの保全について改善すれば景観がよりよくなるとの回答割合が最も多かった。	・歴史的建造物周辺や街路沿いに高い建築物が建ち始めており、問題意識を持つ人が増えたと考えられる。

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★屋外広告物の制度に関する周知・啓発及び適正化に係る行動計画を策定し、重点指導事項を中心に、効率的に取り組む。 ★官民が連携する啓発イベントを継続して行い、屋外広告物制度について周知を図る。	
★都市景観シンポジウムの開催等で良好な景観の周知を行い、景観への市民の意識高揚を図る。 ★関係団体と連携し、各種補助事業の周知を行い景観関連事業の推進を図る。 ★都市景観シンポジウムのテーマや出演者は、市民が興味を持つ内容になるよう検討する。 ★都市景観賞受賞作品写真パネル展の開催方法の検討を行う。 ★歴史的な街並みのあり方について、地元の方々との情報共有を行う。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

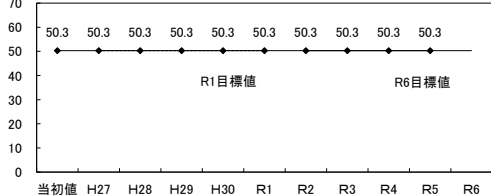
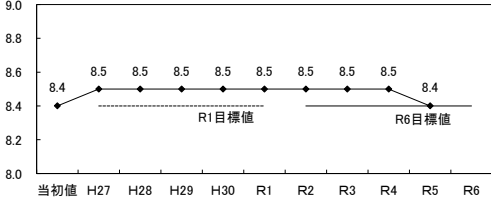
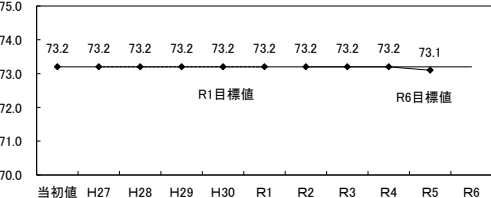
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課	
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	松田 諭	内線 7210
小施策	16-1	土地利用に関する計画の策定・見直し	評価 シート 作成者	佐藤 博	内線 7211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・持続可能な土地利用を推進するため、国土利用計画盛岡市計画を踏まえ、総合的で計画的な市土の利用を継続する必要がある。 ・都市計画(土地利用、道路、公園、下水道、市街地開発事業等)については、都市計画マスタープランに即して、諸施策を総合的かつ体系的に展開していく必要がある。 ・無秩序な市街地の拡大を防ぎ、計画的なまちづくりを進める必要があるため、区域区分及び地域地区の見直しに取り組んでいく必要がある。	藩政時代から形成された既成市街地の充実と新市街地の形成による機能的で活力あるコンパクトなまちづくりを推進するとともに、これら市街地を取り囲む農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう、総合的で計画的な土地利用を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	計画的に土地利用される。
	市街化区域についてはコンパクトなまちが形成される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移					実績の評価		
指標① 都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要 がある区域を指定する割合 (市域における都市計画区域の割合)					単 位	目指す方向	
					%	→	
当初値 (H25)		50.3	R1目標値		50.3	R6目標値	50.3
							
・盛岡市都市計画マスタープランのほか、上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランの目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。					成 果 点		成果の要因分析
					問 題 点		問題の要因分析
・将来における生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。							・関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 ・関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 ・県内では唯一、市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められている。
							問 題 点
・将来における生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。							・人口減少、少子化及び高齢化の進展、社会資本の老朽化等が進行している。
							問 題 点
指標② 農用地として保全し土地利用する割合 (市域における農用地区域の割合)					単 位	目指す方向	
					%	→	
当初値 (H25)		8.4	R1目標値		8.4	R6目標値	8.4
							
・盛岡市都市計画マスタープランのほか、上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランの目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。					成 果 点		成果の要因分析
					問 題 点		問題の要因分析
・将来における農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。							・関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 ・関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 ・県内では唯一、市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められている。
							問 題 点
・将来における農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。							・人口減少、少子化及び高齢化の進展、社会資本の老朽化が進行し、農業の担い手不足等が顕在化している。
							問 題 点
指標③ 森林として保全し土地利用する割合 (市域における森林区域の割合)					単 位	目指す方向	
					%	→	
当初値 (H25)		73.2	R1目標値		73.2	R6目標値	73.2
							
・盛岡市都市計画マスタープランのほか、上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランの目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。					成 果 点		成果の要因分析
					問 題 点		問題の要因分析
・将来における森林資源の保全維持管理を図る必要がある。							・関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 ・関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 ・県内では唯一、市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められている。
							問 題 点
・将来における森林資源の保全維持管理を図る必要がある。							・人口減少、少子化及び高齢化の進展等が進行している。
							問 題 点

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
★ 岩手県が実施予定の土地利用現況調査(都市計画基本図作成)及び都市計画基礎調査に協力する。	
☆ 盛岡市立地適正化計画の評価を行い、見直しを検討する。 ☆ 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で一体的に土地利用を進める。	
★ 令和3年度に策定した市街化調整区域における地区計画の運用方針に基づき、具体的な地区計画の策定について検討する。 ★ 岩手県が実施予定の土地利用現況調査(都市計画基本図作成)及び都市計画基礎調査に協力する。	
☆ 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で一体的に土地利用を進める。	
★ 令和3年度に策定した市街化調整区域における地区計画の運用方針に基づき、具体的な地区計画の策定について検討する。 ★ 岩手県が実施予定の土地利用現況調査(都市計画基本図作成)及び都市計画基礎調査に協力する。	
☆ 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で一体的に土地利用を進める。	

【小施策評価(令和5年度実績評価)】

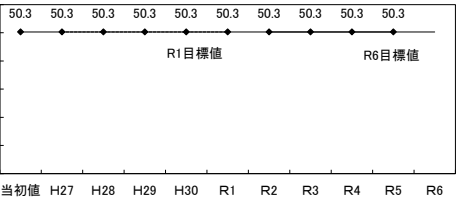
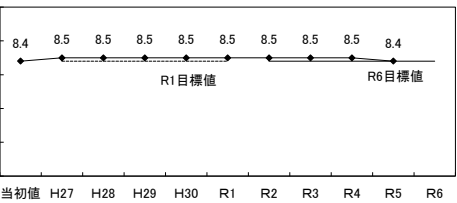
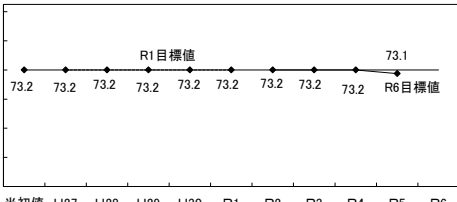
小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課	
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	松田 諭	内線 7210
小施策	16-2	土地利用の管理・指導	評価 シート 作成者	佐藤 博	内線 7211

小施策の概要

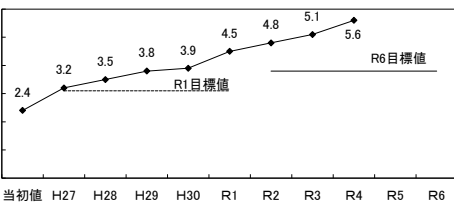
現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市街化区域内の未利用地の土地利用を進めるとともに、市街化調整区域における既存集落のコミュニティ維持や地域の活性化を図る必要がある。	良好な宅地水準を確保するとともに、都市計画に定める土地の利用目的に沿った開発行為が行われ、立地の適正性が確保されるように、管理・指導する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	計画的に土地利用される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和5年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要 指標① がある区域を指定する割合(市域における都市計画 区域の割合)				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	50.3	R1目標値	50.3	R6目標値	50.3
				・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
当初値 H27 50.3 H28 50.3 H29 50.3 H30 50.3 R1 50.3 R2 50.3 R3 50.3 R4 50.3 R5 50.3 R6 50.3				問題点	問題の要因分析
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。				・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。	
農用地として保全し土地利用する割合(市域における農用地区域の割合)				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	8.4	R1目標値	8.4	R6目標値	8.4
				・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
当初値 H27 8.4 H28 8.5 H29 8.5 H30 8.5 R1 8.5 R2 8.5 R3 8.5 R4 8.5 R5 8.5 R6 8.4				問題点	問題の要因分析
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。				・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。	
森林として保全し土地利用する割合(市域における森林区域の割合)				成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	73.2	R1目標値	73.2	R6目標値	73.2
				・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
当初値 H27 73.2 H28 73.2 H29 73.2 H30 73.2 R1 73.2 R2 73.2 R3 73.2 R4 73.2 R5 73.2 R6 73.1				問題点	問題の要因分析
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。				・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。	

今後の方向性(令和6年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
★…R6年度着手済または着手予定 ☆…R7年度以降の着手を検討
c
★☆1 より効率的な窓口対応を図るため、開発・建築相談の予約制を推進し、説明資料等の工夫を継続して検討していく。 ★☆2 市街化調整区域における開発許可基準については、国の動向や他都市の事例、岩手県との協議等を参考に、地域の実情に応じた運用について継続して検討していく。
★☆1 より効率的な窓口対応を図るため、開発・建築相談の予約制を推進し、説明資料等の工夫を継続して検討していく。 ★☆2 市街化調整区域における開発許可基準については、国の動向や他都市の事例、岩手県との協議等を参考に、地域の実情に応じた運用について継続して検討していく。

指標④ 市街化区域における土地利用促進割合（未利用地に対する開発許可面積の割合）				単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
				%	↗		
当初値 (H25) 2.4		R1目標値 3.1		R6目標値 3.8		・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
							
問題点							
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。						・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。	

★☆1 より効率的な窓口対応を図るため、開発・建築相談の予約制を推進し、説明資料等の工夫を継続して検討していく。
★☆2 市街化調整区域における開発許可基準については、国の動向や他都市の事例、岩手県との協議等を参考に、地域の実情に応じた運用について継続して検討していく。